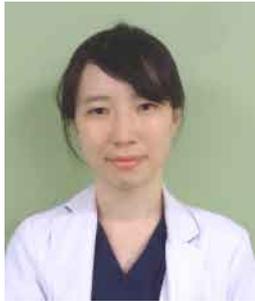




新しく着任した医師のご紹介



脳神経内科の竹中 萌 (たけなか めぐみ) と申します。
 生まれは岡山ですが、祖父母が呉に住んでおり、幼いころからよく呉の海を見て過ごしておりました。
 広島大学を卒業し、今後は広島の地域医療に携わることを目標にしております。
 趣味は水泳です。
 最近バイクの免許を取るため自動車学校に通っています。
 飲酒も脳卒中診療と同じくらい大好きです。皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、何卒よろしくお願い致します。



「腰への負担が少ない移乗介助の方法」について院内研修を受講しました。



移乗とは、ベッドから車椅子へ、車椅子から便座などに乗り移る事です。
 今回は、患者様が転倒・転落した際に床から車椅子やベッドに負担なく戻すという想定で実施しました。
 その時の状況によりますが、2人で介助すると患者様・介助者の負担が少なく安全に戻しやすくなります。
 その際にはまず、外傷がないか頭部の打撲がないかなどを確認し、すぐに移乗するのではなく痛みの有無を確認して移乗介助をすることが大切だそうです。
 常にリスク管理を徹底し、転倒転落しないようにする、もしそうなった場合に備え迅速かつ丁寧に対応できるようにしておくことが必要だと実感しました。

介護部 石橋勇次



旧暦の6月17日は厳島神社の管弦祭開催日です。今年7月26日は、その日に当たります。平安時代、貴族たちは池に船を浮かべて優雅な遊びをしていました。それが、安芸守であった平清盛がこれを信仰していた厳島神社に移し、神事として執り行われるようになったとされています。この地域で、厳島神社管弦祭に呉の方も関わっている事をご存じの方もおられると思います。まず、御鳳輦(ごほうれん)を載せた船を御座船と言いますが、この船は代々倉橋島で建造され、厳島神社に奉納されてきました。これは倉橋島の伝統的な造船技術がとてまれていたことによるもので、倉橋島の桂浜には過去に使用されていた実物の御座船が展示されており、さらに、御座船は御座船格納庫があり、管弦祭にはここから厳島神社に向けて船を出すそうです。また、御座船を引く船を「お漕船」と呼び、この役目を果たしているのが阿賀の漁師です。これは嵐が難破しそうな時に御座船を江波の漁師とともに救助したのがきっかけだそうです。阿賀の漁師は管弦祭二日前の夜、地元の阿賀住吉神社にお祓いを受けたのち宮島に向かい、管絃祭の間は厳島神社の回廊に宿泊し、就寝を許されています。炊き・就寝を許されているのは、阿賀の漁師だけだそうです。残念ながら今年、はコロナ禍の影響で管弦祭は中止となりました。早く、早稲田の祭を楽しめる日が来ればよいですね。

厳島神社管弦祭



診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
 土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
 休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)
 ※7月22日(木)23日(金)は祝日のため外来は休診となります。
 7月19日(月)は通常どおりの外来診療となります。

月曜日	午前：青山	午後：大村	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：大村	午後：宮里	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：宮里	午後：卜部・原		午後：竹中(脳神経内科)	
		(腎臓内科)	土曜日	午前：内科(交代制)	

季節の風景



梅雨明け